

第34回スキルアップセミナー in 東京

開催報告



開催日時：2016年8月28日（日）13時～17時までの実質4時間（受付12時30分～）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会®

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することが出来る。
グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。

KTSM実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO法人 口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM実技認定者
竹市美加	NPO法人 口から食べる幸せを守る会® 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
金 志純	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
甲斐明美	医療法人社団 東山会 調布東山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
砂山明子	都立駒込病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
大石朋子	筑波大学大学院人間総合科学研究科	看護師 元看護大学教員 KTSM実技認定者
大谷愛子	医療法人 マイスター アペックスメディカルデンタルクリニック	歯科医師 KTSM実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM実技認定者

佐藤作喜子 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院

管理栄養士

KTSM 実技認定者

劔持君代 群馬リハビリテーション病院

看護師

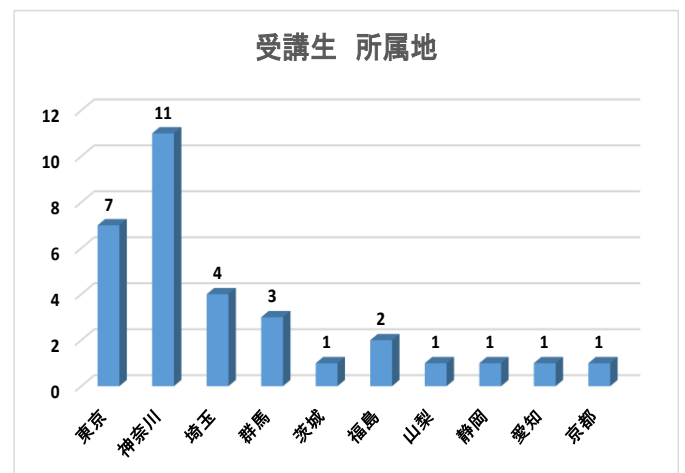
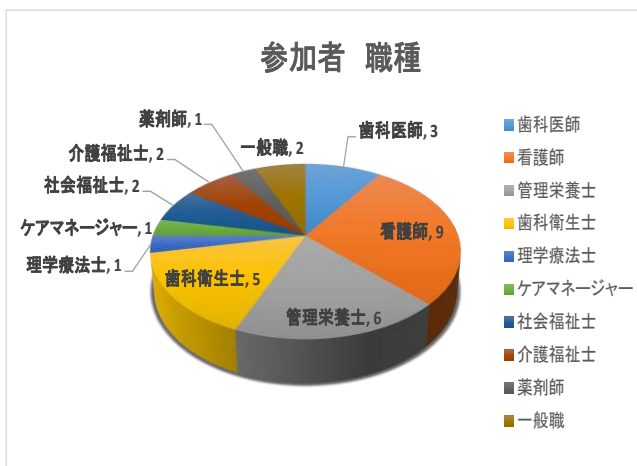
KTSM 実技認定者

セミナーサポート一覧

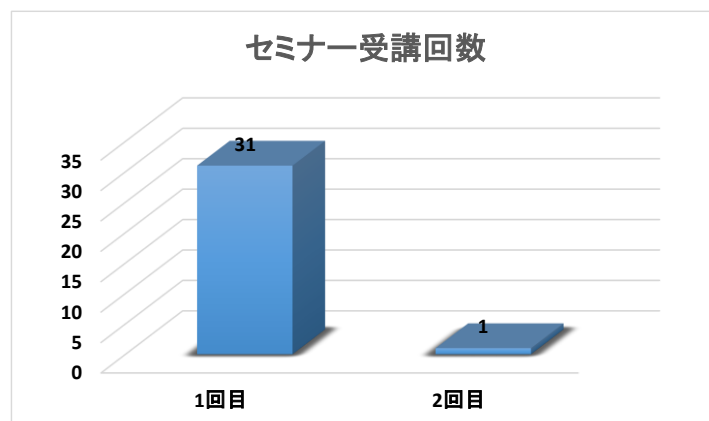
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
上野美幸	山梨市立牧丘病院	看護師 KTSM 実技認定者
齋 健太郎	ソフィア総合ナースステーション城南	摂食嚥下障害看護認定看護師
建山 幸	桜十字病院	看護師
田平佳苗	熊本医療センター	摂食嚥下障害看護認定看護師

アンケート集計結果 （参加者 32 名 回収率 100%）

Q1 職種と勤務先の都道府県



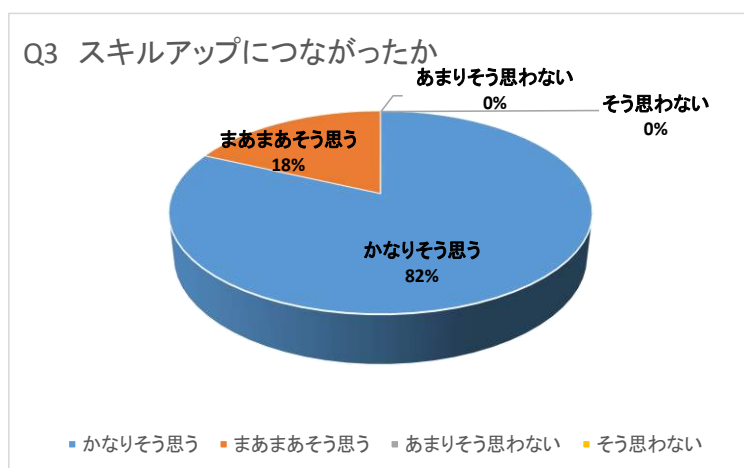
Q2 KTSM 実技セミナー参加回数と参加理由



- ◇ 食べられない方の役に立てればと思い申し込ました。
- ◇ 歯科衛生士として訪問に興味があったのと、母がヘルパーをされており、そちらへも興味があり、技業の習得をしたいと思います。

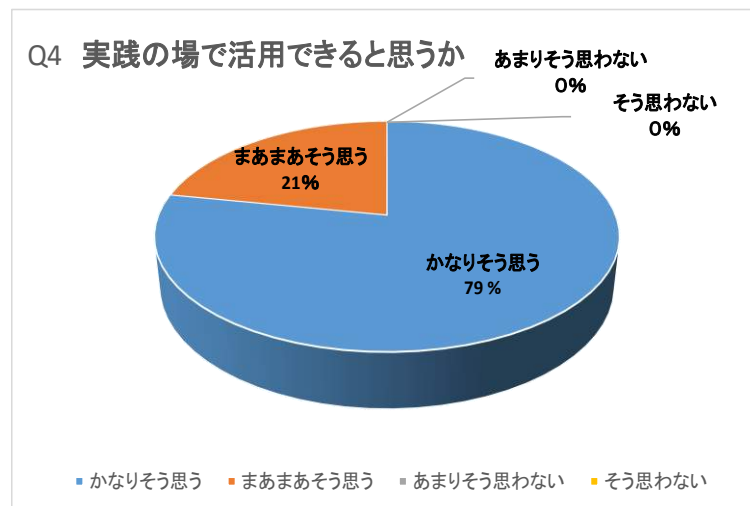
- ◇ 食事介助を今まで余り習ったことがなく、患者さんに合った介助方法を実技で学びたかったからです。
- ◇ 上司に参加を勧められたので。
- ◇ 自分の介助方法（食事）が合っているか不安だったため。
- ◇ 食事介助について学び、スキルを身につけたいと考えたため。
- ◇ 現在は院内でしか、歯科衛生士として働いていないので、今後歯科衛生士として幅を広げる為。
- ◇ 母を自宅で経鼻介護して1ヶ月になりますが、何とか口から食べて欲しいと思います。
- ◇ 母が胃瘻になったことで、食事の幸せを望んでいると思い、叶えてあげたいと思いました。施設の ST さんは無理と言われたので、どうしてもかわいそうで私でできる限り対応できればと思い参加しました。
- ◇ ミールラウンドを開始する事となり、ポジショニング、食べさせる方法を学びたいと思ったため。
- ◇ 経口摂取をすすめたり、食形態をアップしたり、判断できるよう技術を身につけたいため。
- ◇ 介護現場で実践できる技術と知識を学びに参りました。
- ◇ 実際に体験してみたかった。
- ◇ 病院の NST 委員会に入っています。今後口から食べさせる為にポジショニング、食事介助の方法の伝達を考えています。知識と技術の部分を学習したいため。
- ◇ KT チャートを活用して、多職種連携を図りたいと思い参加しました。
- ◇ 勤務先では、上司が食事介助をしない方針なので出来ませんが、介助をすることを食事支援の一部だと思えますので、できるようにし、仕事の中で行いたいと思っているため。
- ◇ NHK のプロフェッショナルを見て興味を持った。同時期に外科から内科に異動し、食事介助を必要とされる方が多くなった。自分の今までの食事介助方法（考えも含めて）を見直したくて参加した。
- ◇ 病棟を異動して1年が経ち今年度より NST 委員会に入りました。しかし、自分でもよく理解できないままで、委員会活動に参加して良いのかと思い参加させて頂きました。
- ◇ 居宅療養指導での食べる（摂食嚥下）リハビリテーションへのスキルアップ、PEG から経口摂取へのリハビリテーションへの具体的な例と実際
- ◇ 食支援を1回も行ったことがないので、どんなことをどんな様子で行うのか、ポジショニングから技術から体験してみたかった。
- ◇ 現職場（特養）では摂食困難者に対して直ちに相談できる医師や ST がいないため、私たちワーカーがスキルを上げることが必須と感じている為。
- ◇ アセスメントのとり方が不安だったのでこれで少し自信が付きました。
- ◇ KTSM の大会に何度か参加し、「スキル」を自分の身につけたかった。
- ◇ 現場で使えるスキル、根拠のあるスキルを身に付けたいと思い。
- ◇ 現場で食事について悩んでいる時に、良いタイミングで NHK のプロフェッショナルに出会いました。見よう見まねで実施したところ、よく食事を召しあがって下さった利用者の方がいらっしゃいました。介護のプロとして、食事介助のプロにもなりたいと思い参加させて頂きました。
- ◇ 食介を基礎から学ぶため。
- ◇ 食事介助技術を学ぶためと、KT バランスチャートの使用方法を学ぶため。
- ◇ 基礎をしっかりと学びたい。
- ◇ スキルアップのため。
- ◇ 当院で嚥下プロジェクトのスタッフの一員で実技のスプーンの使用の仕方、水飲みテスト、フードテストの行い方を理解したかったため。
- ◇ NHK のプロフェッショナル仕事の流儀お見ました。元々嚥下の勉強をしていましたが、直接小山さんの技術を学びたいと思いました。

Q3 セミナーはスキルアップにつながったと思うか



- ◇ 姿勢の大切さが良く分かった。実際の患者役になって、細かな姿勢の部分を工夫する点が良く分かった。
- ◇ ポジショニング etc、余りよく分からなかったので特に勉強になった。
- ◇ 基本がわかっていないことを感じました。姿勢を整えること、介助の仕方、頑張ります。
- ◇ 自分がいかにできていないか、自分自身を知るきっかけになったので、継続して学んで行きたいと思った。
- ◇ 姿勢を正すため、タオルやクッションの使い方、見えているようで見えていないと反省しました。
- ◇ 水分や咀嚼の必要なものが、口に乘せる位置の違いなど知らない知識を得られた。
- ◇ 小山先生より直接経鼻チューブの場合の手ほどきを受けることが出来て、嬉しかったです。
- ◇ 今までテキストを見ながら出来ていると思っていましたが、全く間違っていました。
- ◇ スプーン操作等、ちゃんとしたことをすると難しい。ちゃんと実行出来たらよいと思います。
- ◇ 誤嚥した時の判断がまだまだわかりませんでした。基本を教えて頂いたので、日ごろ聴診器を持って多くのケースを見て身に付けて行かなければならないと思いました。
- ◇ 姿勢、患者の5感を使うことなど学ぶことができた。
- ◇ 基礎が大切だと痛感した。また、当たり前前に食べていることに近づけるように介助して行かないといけないと思った。
- ◇ 更新閉鎖できない方への介助方法を明日から実践してみようと思います。
- ◇ 姿勢が大切ということがよくわかりました。
- ◇ 今は頭がいっぱいなので、帰ってまとめようと思います。
- ◇ 現在勉強しているつもりですが、まだまだ足りないと思いました。もっともっと頑張ります。
- ◇ 姿勢が大事だとはわかっていましたが、それも足りなかったことがよくわかりました。
- ◇ 直ぐにはスキルアップは難しいですが、継続して行くとスキルアップできるのかと思いました。
- ◇ お恥ずかしいですが、基本から出来ていなかったことを改めて知りました。
- ◇ 2回目の為、以前より細かい所まで意識できるようになりました。(スプーン操作や姿勢等)
- ◇ 今後、水飲みテスト、フードテストを、Dr、STにも理解してもらい関わりを持ちながら実際に行っていきたい。
- ◇ 自己流の介助方法だった面が多く、細かなポイントでの介助を教えて頂きよかった。ふつうに角度が 60 度の人でもペースト食を提供していた。見直したい。

Q4 今後の実践の場面で活用することができるか。活用できる場合はどんな場面で活用できるか。

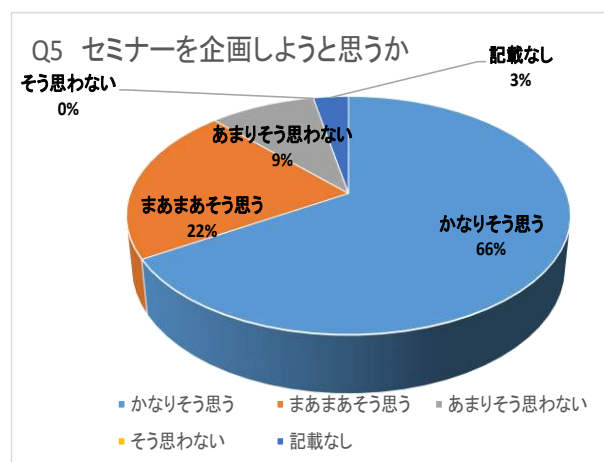


- ◇ 食事場面
- ◇ 今後、周りの方で入院したりなどいるので。
- ◇ 昼食時の食堂回診
- ◇ 私たちの都合で食べられない患者がたくさんいると感じました。可能性をつぶさないようにしていきます。
- ◇ 飲水テスト、フードテストの手技を学べてよかった。
- ◇ 食事指導に活用したいです。
- ◇ 今後、訪問診療に行く機会をつくって頂き、活用していきたいと思います。
- ◇ 食事介助を要する方に対して、食事の配膳位置や目線、ポジショニングなど、初歩的な所から教えて頂け

て良かった。

- ◇ かってから今日学ばせて頂いたことを母に活かしていきたいと思います。
- ◇ ポジショニング等、チェックするポイントが理解できた。実際に介助する場合が無い為。
- ◇ 危険な食事介助をしていないか判断できるようになったと思うので、安全に食べられるよう支援していきたいと思います。
- ◇ 早速、介護の現場で。
- ◇ ポジショニングをする側とされる側を体験し、される側は少しの違いも大きく感じ、それが嚥下する時にも違いとして作用すると改めて感じました。
- ◇ 病棟のスタッフ教育、麻痺のある患者さんの介助、実践に活用。
- ◇ PT、ST、また、多職種間の共通知識技術を持ち、患者の問題だけでなく、セラピストの問題も見つけられる。
- ◇ 食事介助の時、体位調整を怠らない。その人に合った介助方法を行う。
- ◇ いかにも日ごろ実施していた介助が自己流であったかを痛感しました。車椅子、ベッド上、認知症、麻痺のある患者の全介助、一部介助に活かしていきたいです。
- ◇ 居宅や学生に出来る限り伝えていきたいと思いました。
- ◇ ただし、かなり練習を要します。
- ◇ 介助者1人に対し、3~4名の食事介助をしている中で、摂食困難者が徐々に増えてきている現状です。間違った介助方法は殺人的行為だと実感しました。
- ◇ 訪問歯科に努めています。今、嚥下障害が心配という訴えが多いので、どこに問題があるかを理解する事をお知らせするのに活用できるかと思っています。
- ◇ 経口移行が出来るかの評価をSTがやっていますが、一緒にみたいと思う。聴診器が使える管理栄養士になるべく、食事ラウンドで嚥下音を聞いて回ろうと思います。
- ◇ 食事介助方法、スプーンテクニック、ポジショニング、肘の下のタオル。
- ◇ 姿勢やスプーンの使い方はまだまだ難しいと思いますが、一人ひとりの介助者の方大切に食事の関わりをしていきたいと思っています。その継続から現場の仲間を増やしていきたいと思っています。
- ◇ ミールラウンドをしているので、今後指導していきたいです。
- ◇ 実際来週から食事介助に入ります。
- ◇ ポジショニング、食介の基本
- ◇ 入院時からKTバランスチャートの活用をし、水飲みテスト、フードテストなどを行って行きたいが、1度きりのセミナー参加では自信がない。
- ◇ スクリーニングをやってみたい。まず自分の技術面を再認識、介助を受ける側になり、もっと奥舌でスプーンを入れても大丈夫と感じた。周囲へも体験してもらって感じてほしい。

Q5 自施設でこのようなセミナーを企画して行おうと思うか



- ◇ 食事介助の勉強会
- ◇ 院内の研修会
- ◇ 患者に関わる人全ての人に食べることの大切さ、自分たちが食べられなくしていることを知ってほしい。

- ◇ 研修報告があるので、そこで伝えていきたいと思います。
- ◇ 施設に対して、月1回行っている研修に含めていきたいです。
- ◇ まだ母の介護と自分の仕事とで手一杯です。
- ◇ まだまだ人に教えられるレベルではない。
- ◇ 食べられるかどうかは、介助者の手にかかっているということを強く感じたので、実際に食事介助をするケアワーカーに、まずは病棟単位で広めていきたいと思います。
- ◇ まずは自分の病棟で企画し広めていきたい。食事介助、ポジショニングがスタッフ全員でできるように病棟係を中心に行っていきたい。
- ◇ 現在では技術が未熟ですので出来ませんが、必要があると思います。
- ◇ 9月の研修会で内容の一部を発表する。(体位、食事介助方法)
- ◇ どう企画しスタッフへ発信していくか迷うところがあります。でも頑張っって進めて行きたいと思います。
- ◇ 歯科衛生士向けセミナーを依頼されたら、出来る限り伝えていきたいと思います。
- ◇ まだテクニックが固まってません。
- ◇ アセスメントのとり方を再度みんなで確認していきたいです。
- ◇ もっと実力をつけて、自施設(回復リハ病棟)の食事介助のボトムアップを図りたい。
- ◇ 個々の食事介助スキルがバラバラなので、食事部を立ち上げて、少人数からやっていきたい。ケース検討なども。
- ◇ まず上司にこんなことがあったと報告します。
- ◇ 講演会やセミナーをする場面があるので、その時発信していきたいです。
- ◇ 地域のセミナーを開こうと企画中です。
- ◇ 自分も含めて働いている施設ではポジショニングから全くできていないと思いました。今日の記憶とこの熱い気持ちが冷めないうちに、明日施設長に伝え、少しずつでも伝達研修していきたいです。
- ◇ 所属している部署でもまだまだ食事介助の技術が統一されてないため実施していきたい。
- ◇ 「口から食べる幸せ」の意味を寝たきりの患者さまが多い当院では忘れていたスタッフが多いため、まずはなぜ口から食べる事が必要であるかという事をスタッフに伝え、KT バランスチャートの活用方法の研修もあればよいと思った。
- ◇ 自社内に9月に食べることの研修担当をしています。本日の実技で学んだことを伝えます。

Q6 今後のセミナーで取り上げてもらいたいこと

- ◇ 何度も基本に立ち帰られるようなセミナーをお願いします。
- ◇ まだ思いつくところまで余裕がないですが、1mmでも進んでいきます。
- ◇ 食形態のステップアップや、機能をアップさせるための技術、介助方法など知りたいです。
- ◇ 職場が特養という性格上、どなたも看取りなどを迎えられるます。
が、小山先生が仰るように、生きている間は明日への希望があるのだと教えて下さいました。可能な限りあきらめないで、食事介助 etc に頑張ります。担当の大石先生ありがとうございました。
- ◇ 認知症の方
- ◇ 基礎を指導して頂きありがとうございました。また、機会がありましたら、セミナーに参加したいと思います。
- ◇ KT チャートの評価の実際、患者を通した実習
- ◇ 今日行ったことをもっと固めたいです。

- ◇ 問題点の抽出の仕方を学びたい。
- ◇ 認知症で食べられない人の食支援。
- ◇ 一人からチームになっていくことの事例。
- ◇ 基礎の重要性を繰り返して頂きたいです。
- ◇ 直接的に指導頂ける機会をもっと作って行きたいです。

講義と演習風景



説明するアドバイザー、
真剣に聞く受講生



グループ集合写真



グループ集合写真



「必ず同側手添えでアドバイス」
アドバイザーの鉄則です！



受講生の皆さま、スタッフの皆さま、アドバイザーの皆さま、サポーターの皆さま、ご参加・ご尽力ありがとうございました！